



基本目標 2

豊かな自然を育み 快適で住みよいまち



目標とするまちの姿

身近な生活空間から支笏湖を包む大自然まで、千歳に広がる豊かな自然環境を継承し、快適に暮らすことができる「豊かな自然を育み快適で住みよいまち」を目指します。

展開方針

- 1.地球の環境を守る取組を推進します。
- 2.美しい千歳の自然環境を守り、次の世代への継承に努めます。
- 3.廃棄物の減量化・再資源化が進んだ循環型社会の形成を推進します。
- 4.安全で快適な生活環境の維持、向上に努めます。

地球の環境を守る取組を推進します。

現状と課題

- 地球温暖化をはじめ、オゾン層の破壊や酸性雨などの地球環境問題は、人口増加や経済の発展に伴うエネルギーの大量消費、森林伐採など人間の活動が大きく影響しています。
- 環境問題に対応するためには、現状を把握し、環境保全の大切さの認識を深め、将来に引き継いでいくことが重要です。
- 平成27年(2015年)のパリ協定※¹や、SDGs(持続可能な開発目標)を中核とする「持続可能な開発のための2030アジェンダ※²」の採択など、地球環境を取り巻く国際的な取組が大きく変化していく中、今後も引き続き、市民・事業者・行政が連携して低炭素社会の実現に向けた取組を進めていくことが重要です。
- 企業や一般家庭における省エネルギーの取組や環境にやさしいエネルギーの利用などに関する意識は高まっていますが、これらの取組をより一層推進するため、普及・啓発に努めていく必要があります。

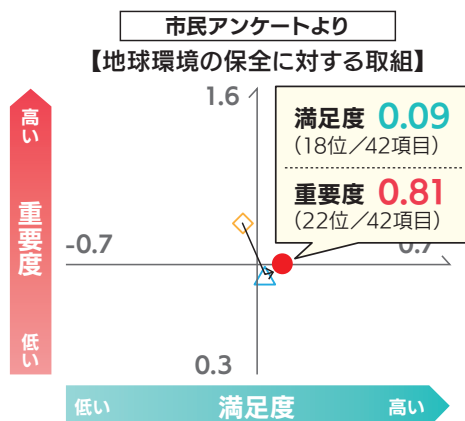
市民の声

【市民アンケート】

- 「地球環境の保全に対する取組」は満足度・重要度ともに平均的と評価されています。

【団体アンケート】

- 約48%の団体が「環境保護(リサイクル、省エネルギーなど)」に関する活動を行っています。



用語解説

※1 **パリ協定**:地球温暖化を抑制するため、各国の取組を定めた国際的な協定で、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満に抑え、さらに1.5℃未満を目指すこと。

※2 **持続可能な開発のための2030アジェンダ**:気候変動への対応など、次世代の経済利益を損なわないように社会発展を進めるため、国際連合が策定した令和12年(2030年)までの指針のこと。

基本方向

市民一人ひとりの環境に関する意識の醸成を図るため、周知・啓発や環境学習の機会を提供するほか、幅広い団体等との連携や情報交換の継続に努めます。

地球環境問題や環境保全に対する市民・事業者の意識を高めるとともに、環境負荷を低減するため、環境保全につながる取組の拡大に努めます。

温室効果ガス排出削減のため、地球温暖化防止に特化した環境マネジメントシステム※や環境にやさしいエネルギーの普及・啓発に努めます。



千歳市子ども環境教室



千歳市役所第2庁舎の太陽光パネル

用語解説

※ **環境マネジメントシステム**：環境に関する諸施策を推進するため、「計画(Plan)」「実施(Do)」「点検(Check)」及び「見直し(Action)」のステップを繰り返し実施することで成果を高める仕組みのこと。



展開方針2

美しい千歳の自然環境を守り、次の世代への継承に努めます。

現状と課題

- 千歳市は清澄な水をたたえる支笏湖や千歳川、緑豊かな森林などの雄大な自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息しており、樽前山や恵庭岳等の山々やオコタンペ湖など、支笏湖周辺地域は支笏洞爺国立公園に指定されているほか、内別川周辺や千歳川周辺、青葉公園などの特に自然環境を保全すべき地区については、「千歳市自然環境保全地区」に指定し保全に努めています。しかし、外来種の侵入や近年の気候変動など、野生生物の生息・生育環境に影響が見られることから、将来にわたり生態系を保全するため、これまで行ってきた自然環境保全の取組を継続する必要があります。
- 近年のアウトドア活動は多種多様化しており、誰もが気軽に自然と親しむ機会が増加しています。その一方で、利用の集中やマナー違反などによる自然環境や野生動植物への影響が見られるため、適正な利用など人と自然との共生について理解を深める必要があります。
- 大気、水質などの生活環境は、継続的な監視や指導により保全されています。今後も健康で安全安心に暮らすことのできる環境を確保するため、取組を継続する必要があります。また、PM2.5※など新たな環境問題については、情報収集し、市民周知や測定などに努める必要があります。



支笏湖

用語解説

※ **PM2.5**: 大気中に浮遊している直径2.5マイクロメートル(1マイクロメートルは1mmの千分の1)以下の非常に小さな粒子で、工場や自動車、船舶、航空機などから排出されたい煙や粉じんなどの大気汚染の原因となる粒子状の物質のこと。

市民の声

【市民アンケート】

- 「自然環境の保全」は、満足度が高く、重要度は平均的と評価されています。
- 「騒音・振動・悪臭などの公害防止」は、満足度が低く、重要度は比較的高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。
- 向陽台地域などの住民からは、「今の場所に住み続けたい理由」として、「自然が豊かだから」という声が多くあります。

【中高生・大学生アンケート】

- 「自然環境」への評価が最も高くなっています。

【東京千歳会アンケート】

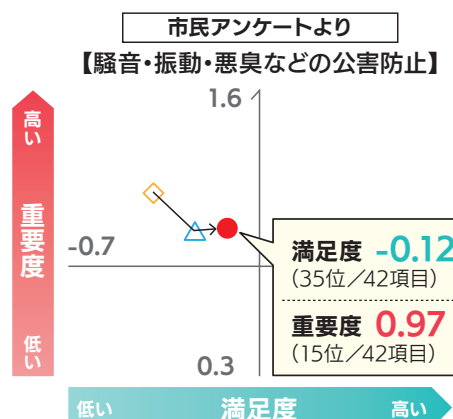
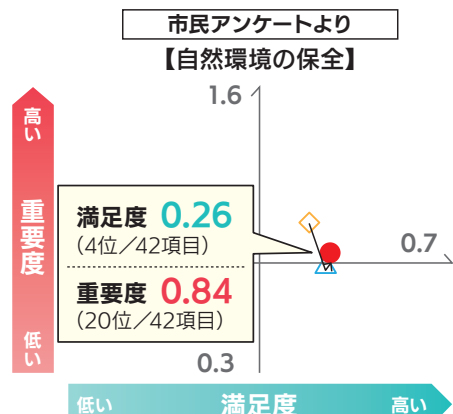
- 回答者全員が「自然環境」に良いイメージを持っています。

【都市経営会議からの提言】

- 恵まれた自然環境の保全に引き続き取り組み、子どもや孫の代まで残しましょう。

【ちとせの木プロジェクト】

- 10年後の千歳について「しぜんゆたかでいてほしい。」「自然がいっぱいの町!!」にしたい、との意見がありました。



基本方向

希少な動植物の生態系の変化などを把握するとともに、千歳市の豊かな自然環境の保全に努めます。

自然に対する知識を深め、大切にする心を育むための啓発を進めるとともに、自然に親しみ、ふれあう機会の充実に努めます。

環境保全に係る監視・指導を行い、公害発生の未然防止に努めます。

正確な測定や新たな環境問題に対応するため、計画的な機器の更新に努めます。



春のバードウォッチング

展開方針3

廃棄物の減量化・再資源化が進んだ循環型社会の形成を推進します。

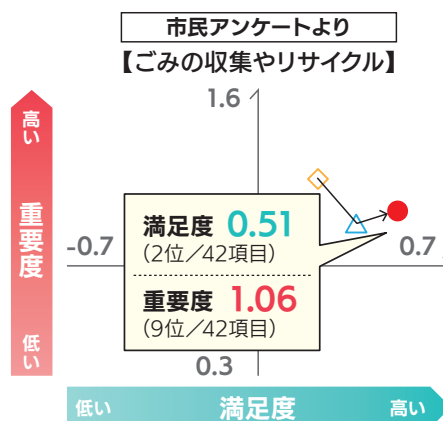
現状と課題

- 様々な施策を市民・事業者・行政が連携・協働して取り組むことにより、家庭及び事業所から排出されるごみの搬入量は微減傾向になっていますが、リサイクル量は横ばい傾向となっています。循環型社会の形成に向け、今後も、ごみの減量化を推進するとともに、リサイクル意識の醸成に取り組む必要があります。
- 環境や安全に配慮したごみ処理施設の効率的な運営を維持するため、老朽化した施設を計画的に整備する必要があります。また、広域的な連携による効率的かつ安定的なごみ処理体制を構築するため、焼却処理施設の整備を進めるとともに、ごみ処理施設全般に関する広域処理の方向性について、関係市町と協議・検討していく必要があります。

市民の声

【市民アンケート】

- 「ごみの収集やリサイクル」は満足度が高く、重要度も比較的高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。



基本方向

市民・事業者・行政等が共通認識のもと、連携してごみの発生抑制やリサイクルを推進するとともに、リサイクルへの理解と協力が得られるよう啓発に努めます。

ごみの再資源化により資源を循環させるため、ごみの適正排出や再生品の利用などを促進します。

ごみ処理施設の効率的な運営を長期的に維持するため、老朽化した施設の計画的な整備を推進します。

効率的なごみ処理体制を構築するため、関係市町と連携した取組を推進します。



展開方針4

安全で快適な生活環境の維持、向上に努めます。

現状と課題

- 快適な生活環境を創出するためには身近な生活エリアの環境衛生の維持・向上が必要であり、防災や防犯の視点からも河川周辺や空き地などの美化推進が求められています。これまで、町内会等の地域団体と協働し、水辺の美化活動の支援や、空き地の雑草繁茂調査を行うなど適切な管理に努めてきましたが、これらの取組は今後も継続していく必要があります。
- 少子高齢化の進展や経済的事情などにより、長期間管理されていない空き家が発生しており、対策を進めていく必要があります。
- 市内には、3か所の霊園、9か所の共同墓地、1か所の葬斎場がありますが、いずれも施設整備から年数が経過し、老朽化が進んでいるほか、合葬墓の申請件数増加など、霊園における利用者ニーズに変化が見られることから、これらを踏まえ、計画的な施設の整備や周辺環境の美化に努めていく必要があります。
- ペットの飼い主の一部に不適切な飼育が見られるなど、身近な生活エリアの環境衛生の維持・向上を図るため、動物の飼育や管理についてのモラル向上を促していく必要があります。
- 新千歳空港は、平成6年(1994年)に国内初の24時間運用が開始され、これに伴う騒音等の影響を軽減するため、航路下の地域に対して、防音対策や地域振興策などに取り組んできました。今後も引き続き、北海道などと連携し、24時間運用に対する周辺住民の理解を得ながら、対策を進めていく必要があります。
- 航空機騒音に係る住宅防音工事や移転事業では、騒音区域や告示日^{※1}により、対象となる建物や土地などが決められているなど、制度上の課題があります。また、防音対策済みの建物については、経年劣化等の状況に応じて補修や大規模改修を行う必要があります。
- 千歳市には2つの陸上自衛隊駐屯地と1つの航空自衛隊基地が所在しています。これら防衛施設の運用に起因する騒音や振動などの諸障害については、市民が快適に暮らすことができるよう、実態の把握に努めるとともに、国に対し各種障害の解消や軽減措置を求めていく必要があります。
- C経路^{※2}においては、車道の拡幅や歩道の設置、耐キャタースファルトによる整備を行ってきましたが、舗装の老朽化により、大型車や装軌車が走行する際に騒音や振動が発生しています。また、航空機の飛行によるテレビの受信障害については、共同受信施設^{※3}を整備してきましたが、施設の老朽化により、機能低下が見られることから、防衛施設周辺の住環境を良好に維持していくため、計画的な整備や適切な維持管理を続ける必要があります。
- 在日米軍再編に係る訓練移転や諸外国との共同訓練について、市民の不安解消や、安全・安心の確保に努める必要があります。

用語解説

※1 告示日：国が「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律及び施行令」に基づき、航空機の頻繁な離着陸等の実施により生ずる音響の影響度を考慮して、その区域を定めた日のこと。

※2 C経路：東千歳駐屯地と北海道大演習場を結ぶ約10kmの公道のこと。装軌車(主に戦車)の移動ルートとなっている。

※3 共同受信施設：航空機の影響を受けてテレビの映像が乱れる地域の対策として、テレビ放送をケーブルで受信するために整備した施設のこと。

市民の声

【市民アンケート】

■「騒音・振動・悪臭などの公害防止」は、満足度が低く、重要度は比較的高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。なお、青葉、日の出、東郊、住吉など、航路下の地区で特に満足度が低くなっています。

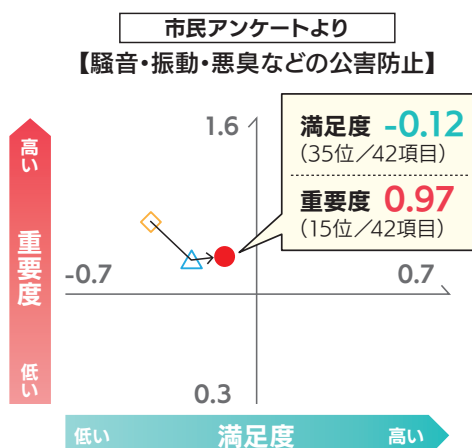
■ペットを飼う人のマナーの改善を求める声があります。
(自由記述)

【市民・中高生・大学生アンケート】

■防音対策の充実を求める声があります。(自由記述)

【中高生アンケート】

■中学生の約83%が、将来住む場所で「騒音・振動・悪臭などの公害防止」がとても重要と回答しています。



基本方向

河川周辺の清掃活動や、空き地の適正な管理など、美化意識の高揚に向けた啓発の充実により、環境衛生の向上に努めます。

空き家の所有者に適正な管理を促し、周辺住民の生活環境の維持・向上に努めます。

利用しやすい霊園、葬斎場となるよう設備等の整備や、良好な周辺環境の維持に努めます。

ペット等の適切な飼育についての啓発、指導に努め、モラルの向上を促進します。

航空機騒音に係る住宅防音対策の制度改善や事業促進に取り組み、良好な生活環境の確保に努めます。

防衛施設の運用に起因する諸障害について、実態の把握に努めるとともに、これらの改善を国に要請し、防衛施設等と共存するまちづくりを目指します。

C経路や共同受信施設については、定期的な点検と診断結果に基づく整備を行うなど、計画的な整備と、適切な維持管理に努めます。

在日米軍再編に係る訓練移転や諸外国との共同訓練等について、安全性の確保などを国に求めるとともに、市民への速やかな情報提供に努めます。